

<資 料>

卒業生からのメッセージ—教育と 職業に関するアンケート調査

市 川 太 一

は じ め に

広島修道大学法学部国際政治学科は1990年に設立された。2005年に創設15周年を迎え、卒業生が1000名を超える人数になったのを機会に、教育と職業に関するアンケート調査を行なった。

18歳人口の減少に伴い、発足当時と比べ、入学してくる学生の学力や意欲も大きく変わっている。

教育面では、学生による授業評価や授業改善などを行い、職業に関する講義なども開講されるようになっている。

オープンキャンパスでは、最近では「国際政治学科を卒業したら、どのような就職先があるのか」という質問がよくあり、高校生の関心事項も変わっている。

このような背景を下にアンケート調査を実施した。

卒業生数は総計1049名であるが、住所が判明したのは941名であり、192名から回答があった。回答率は21.7%であった。

アンケートの実施期間はおよそ1ヶ月、2005年10月6日に発送し、10月30日に締め切った。

回答率が20%強というのは、この種の調査として多いのか、少ないかわからない。

比率としては高いとは言えない。しかし、国際政治学科の卒業生の就業状況を知ることができた。そして何よりも記述式回答によって、国際政治

学科の存在意義と現役学生のキャリア教育の方向を再確認できたことをあらかじめ述べておきたい。

I 卒業生と職業

1 回答者の属性

アンケート回答者の性別は女性がおよそ3/4, 男性が1/4であった。

卒業回数では全部で14回を数え, 回答者数は各回とも10名以上あった。20名を超える回答があったのは, 95年, 2000年, 2001年3月の卒業生である。

既婚と未婚の割合は, 既婚が35.9% (69名), 未婚が63% (121名) である。

現在, 職についている比率は, 表1-1のように, 男性の比率がおおよそ10%高い。働いていない女性の60%が, 出産と結婚を理由としている。以下, 最初の数字は比率, () 内の数字は回答者数である。

表1-1 回答者 (性別・就労)

	男	女	総 計
働いている	91.5(43)	82.1(119)	84.4(162)
働いていない	8.5(4)	17.9(26)	15.6(30)
総 計	24 (47)	76 (145)	100 (192)

2 職 種

職種は表1-2の通りである。公務員の比率は高いが, 全卒業生の職種ではこれほど多くないと推測される。回答者の属性と捉えたほうがいいのだろう。

表1-2 職 種

	男	女	総 計
企 業	60.5(26)	74.8(89)	71.0(115)
公務員	8 (13)	9.9(16)	17.9(29)
自営業	2.3(1)	3.4(4)	3.1(5)
その他	7 (3)	7.6(9)	7.4(12)

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

無回答	0	0.8(1)	1
総 計	100 (43)	100 (119)	100 (162)

公務員には地方公共団体（第3セクター・警察官などを含む）国家公務員（独立行政法人を含む）を算入している。

3 雇用形態

女性の3割が契約、派遣、パートである。これに対して、男性は雇用期間の定めのない形態が9割近い。

4 勤続年数

表1－3 雇用形態

	男	女	全 体
フルタイム	88.4(38)	68.1(81)	73.5(119)
契約社員	2.3(1)	10.9(13)	8.6(14)
派遣社員	4.7(2)	10.1(12)	8.6(14)
パート	2.3(1)	8.4(10)	6.8(11)
無回答	2.3(1)	2.5(3)	2.5(4)
総 計	100 (43)	100 (119)	100 (162)

男性の勤続年数はどの年齢層でも10%を超えている。これに対して、女性には5年未満が21%、7年未満から10%を切っている。15年未満となると4.2%となっている。7年といえば、29歳程度で結婚、出産のためだろうか。

表1－4 勤続年数

	男 性	女 性	総 計
1年未満	20.9(9)	25.2(30)	24.1(39)
3年未満	11.6(5)	35.3(42)	29 (47)
5年未満	16.3(7)	21 (25)	19.8(32)
7年未満	14 (6)	6.7(8)	8.6(14)
10年未満	25.6(11)	7.6(9)	12.3(20)
15年未満	11.6(5)	4.2(5)	6.2(10)
総 計	100 (43)	100 (119)	100 (162)

5 転職率と転職回数

図 1－1 転職の有無

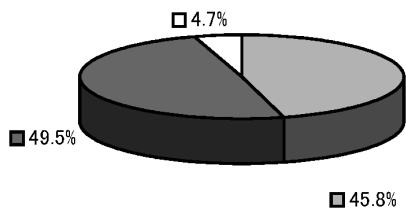


表 1－5 転職の有無

	男 性	女 性	総 計
現在も働いている	53.2(25)	43.4(63)	45.8(88)
転職した	44.7(21)	51 (74)	49.5(95)
無回答	2.1(1)	5.5(8)	4.7(9)
総 計	100 (47)	100 (145)	100 (192)

勤続年数よりも興味があるのは、最初に勤めた企業などにどの程度の割合で勤めているのかである。転職した卒業生はおよそ1/2になる。男性よりも女性の転職率が少し高い。卒業時の企業などにそのまま勤めつづける比率を考えると、就職先を考える際には参考にすべき比率である。

転職回数をさらに聞いてみた。およそ4割が3回以上転職している。少ない数である。

表 1－6 転職回数

	男 性	女 性	総 計
2 回	71.4(15)	51.4(38)	55.8(53)
3 回	23.8(5)	28.4(21)	27.4(26)
4 回	4.8(1)	10.8(8)	9.5(9)
5 回以上		2.7(2)	2.1(2)
無回答		6.8(5)	5.3(5)
総 計	100 (21)	100 (74)	100 (95)

6 取得している資格

全体の取得状況は表1-7の通りである。TOEICの点数とか英検の級などと細かく書かれていない回答者もある。英語で言えば、TOEICは600点以上が書くことのできる資格になるのだろうか。英検2級がもっとも多い資格である。

パソコン関係ではオフィス系資格が60%程度である。

事務系では簿記2級、秘書技能検定では2級がもっとも回答数の多い資格となっている。

他の資格では、金融関係資格としてファイナンシャルプランナー、証券外務員、生命保険募集人資格、医療関係では医療事務が上がっている。

役に立つと思われる資格についても聞いたが、現在持っている資格と重なっているので省略した。1つだけ書くと、簿記を必要と答えている者が40%という点が注目される。

望ましい共通資格として TOEIC 600点以上、オフィス系資格、簿記2級をあげることができるのだろうか。

表1-7 取得している資格

語学系の資格	集計	パソコン関係の資格	集計	事務系・独立系の資格	集計	金融・保険関係の資格	集計	医療・福祉に関する資格	集計	その他の資格	集計
TOEFL	1	Excel 表計算処理技術3級	1	簿記	1	ファイナンシャルプランナー	1	医療事務	4	アロマセラピーアドバイザー	1
TOEIC	12	MOUS 検定	6	簿記2級	6	ファイナンシャルプランナー2級	6	医療事務2級	5	いけばな家元教授免許	1
TOEIC905	1	Office系 WordExcelAccessPowerPoint)	30	簿記3級	5	ファイナンシャルプランナー3級	3	社会福祉士	1	ガイドヘルパー	1
TOEIC900	1	システムアドミニストレーター	5	秘書技能検定	4	証券外務員	1	社会保険労務士	1	スポーツインストラクター	1
TOEIC815	1	パソコン関係	1	秘書技能検定準1級	1	証券外務員1種	4	ホームヘルパー	4	ディプロマ	1
TOEIC760	2	ワープロ検定	2	秘書技能検定2級	8	証券外務員2種	1	ホームヘルパー2級	1	バターンメンキーング検定	1
TOEIC725	1	基本情報技術者	1	宅地建物取引主任者	4	証券外務員4種	1	福祉住環境コーディネーター	1	華道	1
TOEIC695	1	ソフトウェア開発技術者	3	土地家屋調査士	1	生命保険募集人資格	5	エックス線作業主任者	1	華道1級	1
TOEIC660	1	ソフトラウェア開発技術者	1	マンション管理士	2	損害保険募集人資格	4	ガンマ線透過写真撮影作業主任者	1	硬筆検定2級	1
TOEIC650	1		1	測量士補	7	年金アドバイザー	1			珠算暗算	2
TOEIC630	1		1	厨房設備士	7					色彩能力検定	1
TOEIC600	2		1	財務4級	1					色彩能力検定3級	1
TOEIC570	1		1	税務3級	1					茶道	1
英検	11		1	通関士	3					洋裁技術検定	1
英検1級	1		1	内部監査員	1					和装着付師	1
英検2級	20		2	販売士(小売商)	2					色彩能力検定	1
英検準1級	2		1	販売士(小売商)2級	1					色彩能力検定3級	1
中国語検定	1		3	販売士(小売商)3級	3					調理師免許	1
漢字検定	2			教員免許	4						
漢字検定2級	2		3	総合旅行業務取扱管理者	3						
総計	65	総計	49	総計	53	総計	25	総計	18	総計	19

Ⅱ 大学教育について

1 大 学

「大学在学中の正課，課外を問わず，仕事との関係で有意義であったと評価できることはありますか」という問に対して，「ある」と答えた人数はおよそ90%弱であり，「ない」と答えた卒業生が10%程度いる。「有意義である」と回答した人に複数回答で答えてもらった。

もっとも回答数が多かったのが，アルバイト，講義，友人，ゼミナールの順である。わずかだが講義よりもアルバイトという答えが多かった。「仕事との関係で」という設問であったせいかもしれないが，講義などよりもアルバイトと答えた比率が高いのは，教員としては残念な結果である。

図 2－1 大学教育は有意義であったか

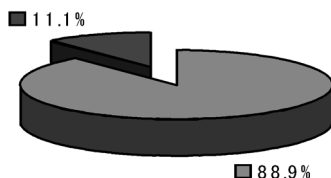


表 2－1 仕事の関係で有意義だったもの

	男	女	総 計
講 義	16.5(19)	20.8(79)	19.8(98)
ゼミナール	18.3(21)	13.5(51)	14.6(72)
サークル活動	17.4(20)	10 (38)	11.7(58)
アルバイト	18.3(21)	21.6(82)	20.9(103)
友 人	15.7(18)	18.2(69)	17.6(87)
海外セミナー・交換留学	13 (15)	12.7(48)	12.8(63)
その他	0.9(1)	2.1(8)	1.8(9)
無回答	0	1.1(4)	0.8(4)
総 計	100 (115)	100 (379)	100 (494)

全体の傾向とは別に，性別で男性は女性よりもゼミナール，サークル活

動、これに対して女性は男性よりも講義、アルバイト、友人を得ることを評価する意見の比率が高い。通常であれば、正課の中ではゼミナールがもっとも有意義であると答えた比率が高くなると予想されたけれども、そうっていないのはゼミナールが必修となっていないし、1人の教員のゼミナールを2年間履修するシステムになっていないためだろうか。

2 アルバイトとサークル

アルバイト、サークル活動についての記述式回答を表2-2、表2-3のように分類した。詳しくは最後の参考資料1をみて欲しい。ページ数の関係ですべての回答を書いていない。

(1) アルバイトから何を得たのか

表2-2 アルバイトで得たもの

内 容	人数
1 厳しさ	1
2 責任(感)	1
3 職場の雰囲気に慣れる	1
4 多様な年齢層との接触、接し方	9
5 将来の進路選択の参考になった	4
6 広い視野を学ぶことができた	4
7 働くことの大切さを知る	3
8 お金を稼ぐ大切さ	3
9 人間関係	5
10 社会で働く大変さ	2
11 社会人としてのマナー(言葉遣い、手紙の書き方、挨拶)	7
12 一般的な常識	2
13 達成(感)	2
14 会社の仕組み	1
15 やりがい	1
16 適性、自分を知る	1
17 仕事の体験	1
18 計画性・優先順位	1
19 接客業	5
20 目標	1

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

アルバイトの中でもっとも多かったのが、表2-2のように、多様な年齢層と接触を評価する意見であった。社会人としてのマナー、接客業、人間関係とつづく。経験したアルバイトの職種による影響も大きいと思われる。

ここでは、大学の正課では得ることのできない多様な世代との接し、視野が広がったという意見が多い。より内容を明確にするために、代表的な意見をいくつか取り上げた。()内の最初の数字は卒業した年、Mは男性、Fは女性、自営とか、企業、公務員は職業、次のMOUSなどは持っている資格、最後の数字は整理番号を表す。

「様々なアルバイトをし、年齢層も多様でした。そういった人にどのように接すれば人間関係がうまくいくのかを学んだように思えます。」(2000M19)

「私はアルバイトで老若男女を問わず、いろいろな方と知り合うことができました。学生の頃は、接することだけで嬉しかったのですが、私の視野もすごく広がっていることに気づきました。…人とのつながりは私の財産です。」(03F自営・MOUS・88)

アルバイトは、職業の選択に役立っている面もある。

「アルバイトで、会社の中で働くということがどういうことかを知ることができたと思います。社員、アルバイト、契約社員など様々な立場、職種で働いている人たちの話を聞くことが、今の自分の職業を決めるのに役立ちました。」(04F企業・MOUS・45)

「社会人として働く前にアルバイト等で働く事を経験し、または社会人と触れ合っておくという事を就職する前に経験しておくことは今後の就職活動を行う上でとても重要であると思いました。学生時代のアルバイトは、社会人となる上でも大切です。」(01Fその他・簿記2、英検2・69)

(2) サークルから何を得たのか

サークルについて単独で書いた意見は、表2-3にあるように15件であった。人間関係や上下関係が5件、協力・協調性が3件である。アルバ

表 2-3 サークルから得たもの

内 容	人数
1 人間関係・上下関係	5
2 責任感	1
3 体力	2
4 協力・協調性	3
5 忍耐	1
6 友人	2
7 社会性	1
8 組織の運営	1

イトから学ぶこととは少し異なっている。

「先輩や後輩をはじめ、他サークルの方々等多くの人と交流を持つことにより、多くの事を学ぶことができた。人間関係を築く上で非常に有意義だった。また、1つの事柄について皆で分担し合って成し遂げてゆく経験は、今も仕事の中で少なからず役立っている。」(95M公務員179)

「サークル活動では、周囲と合わせる、自己中心的な行動を取らない、周囲をよく観察するなどの力がついたことが有意義でした。」(05F企業・WORD 1・135)

3 仕事と職業との関連で大学教育に取り入れた方がよいものは

「. 講義あるいはゼミナール」と答えた者に、何が有意義であったのか、聞いてみた。考え方がもっとも多く40%弱、つづいて文章あるいは口頭による表現、自分で勉強する方法とつづいている。学科の性格のせいだろうか、語学と回答した人はおよそ1割である。

評価する項目は、仕事の関係で有意義だったものについて性別差があったが、この項目でもあった。男性は考え方を評価する比率が1/2近くになっているのに、女性は35%である。語学を評価するのは女性である（男3.9%に対して女14.7%）。

注目すべき点は、考え方や文章・口頭による表現の方が、情報技術や語学よりもはるかに高い評価を得ている点である。

大学教育で評価されているのは、技術的なものとは異なっている。

表 2－4 有意義であったもの

	男	女	総 計
考え方	47.1(24)	35 (62)	37.7(86)
文章・口頭による表現	23.5(12)	26 (46)	25.4(58)
情報技術	3.9(2)	4.5(8)	4.4(10)
自分で学習する方法	17.6(9)	15.3(27)	15.8(36)
語学	3.9(2)	14.7(26)	12.3(28)
その他	3.9(2)	4.5(8)	1.8(9)
無回答	0	0	0
総 計	100 (51)	100 (177)	100 (228)

今回の調査の中でもっとも意義あったのは、「大学教育の中に仕事・職業との関連で取り入れたらよいと思われることがありましたら、お書きください」と聞いた項目である。

最近、大学で学ぶ内容と就職とを直結させるキャリア教育が高校までに行なわれているせいだろうか、どういうところに就職できるのですかとか、どんな資格が取れるのですか、という質問が多い。

この点、卒業生たちはどのように考えているのだろうか。

記述式アンケートを表 2－5 のように内容別に分類してみた。詳しくは

表 2－5 大学教育へ取り入れたらよいもの

内 容	人数
1 教養・考え方を広く持たせる	15
2 英語プログラムの充実	3
3 プレゼンテーション、ディベートなどの講義	7
4 インターンシップ	15
5 企業紹介・業種、職業についての講義	24
6 文章表現力の講座	1
7 語学研修	2
8 資格取得講座	9
9 サークル活動	3
10 情報技術に関する講義	2
11 国際政治学科の性格	8
12 その他	6
総 計	95

最後の参考資料1をみて欲しい。アルバイトとサークル活動についての記述式回答と同様に、ページ数の関係ですべての回答を書いていない。

(1) 大学で何を学ぶのか

アンケートでは、講義とゼミナールが有意義であると選んだ者のなかでもっとも多かったのが、「考え方」である。記述式意見には、次のように書かれていた。

「最近の大学はどこも、職業に直結すること（インターンシップや資格取得など）にばかり目が向いているようで少し残念です。学生や親の意識も、ますます大学に依存、よりかかり過ぎているように見受けられます。せっかくの4年間です。就職活動よりも、その後の人生の方がはるかに長いわけで、そこへ向けての下地づくりが大学生活であると考えます。やりたいことや明確な目標が常に持てる人は少ないと思います。それでも、自分がどうありたいのか、友と語らい、様々な世界に接すること、大学での勉強を通じて表現し、考える方法を身につけることなど、目先の結果にとらわれない、人間としての意識を高める機会をもっと増やしていくことは、大学だからできることではないでしょうか。」(94F企業・教員免許・141)

「技術で言えば、パソコンは必須。でも、最も大切なのは人間関係、責任感、仕事の組立て方。これらは授業で学んでできるものではなく、今までの人生でいろいろな人と出会い、考えていたかによると思う。私は仕事の中で、大学の授業内容は全く関係なかったが、あの4年間は無駄ではなく、人生において必要な時間だったと思う。」(95F・育児・143)

(2) 大学生や高校生にどう提示するのか

「大学時代の活動は正課、課外問わず今の私の基礎となっています。では、どの活動、授業がどんな力に？と問われると難しいものがあります。今私は広告代理店に勤めていますが、授業の内容が直接専門として生かしているわけではありません。考え方や、問題を解決する能力などの力になって役立っています。在学生や今から大学に入る高校生に、社会で必要な能力と、大学で身につける能力を関連づけて具体的に示してあげて欲しい。今は就職活動の際に慌てて自分が身につけた能力を探し出している状況だと思います（とても難しいと思いますが）。」(2000F企業・TOEIC・176)

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

「ゼミをさらに発展させ、企画→制作→プレゼンテーションを身につける授業に力を注ぐべきである。社会に出て実感したのは、自分の考えたこと、思ったことを相手に伝え、理解してもらうことがいかに難しいかということ。働く現場では、あらゆるシーンでアイデアを求められ、それを実践していくことが重要になってくるため、単なるコミュニケーション能力だけでなく、カタチにしていくためのプレゼンテーション能力が必要。これは、どんな職業についても言えることだと思う。また、国際政治学科だけでなく、他の学科でも言えることだと思うが、この学科だからこの方面へ必ずしも就職というのではないと思う。だから、入学を考える高校生には、就職先の振幅を見せてあげることが大事である。国際政治を学んだとしても、直結する職業は少ないとネガティブに考えるのではなく、多岐に渡る分野で活躍できるということを伝えるべきではないでしょうか。大学生一人ひとりが興味・関心があることを学び、先生や友人との関係の中で人間性を豊かにする場であって、大学教育＝職業というように直結して捉えるのは疑問に思う。」(02F企業・WORD・EXCEL 2・155)

「明確に何がしたいかも分からない高校生もいるので、修道大学のオープンキャンパスへ参加して、どうなるのかの具体例を知りたいのだと思います。国際政治学科で学んだことは、今の私の考えに大きく影響しています。」(01F企業107)

(3) 仕事をどのように学び、どのような講義があったらいいのか

① インターンシップ

「学生のうちから仕事と向き合う時間を作れば良いと思う。自分の中でインターンシップは今思えば、ものすごくいい経験になった。国際政治学科はかなり自分から離れた事を教えられる事が多かった。身近な問題についての講義があればいいと思った。また、ゼミナールは全員参加にするべきで、論文を書くべきである。今思うと論文を書いてよかったと心から思えるから。」(05M企業・WORD 2・簿記 3・49)

「現在の職種が、学んだ学部との結びつきが無いので思い当たりません。強いというならば各種資格の強化、ビジネスマナーの実践が必要と思われます。そういう意味ではインターンシップは、『働く』という環境を垣間見る事ができるのではないかと思います。実際に就職してみないと実感できないという事がほとんどです。」(02F企業・秘書検定・パソコン検定・124)

「実習を行うと良いのではと思います。学生の希望する業種の企業、団体にあ

る程度の期間（1週間～2,3週間ぐらい）行き、実際の仕事内容を見学したり、仕事を手伝ったりするというものです。就職セミナーや会社訪問よりも企業、団体の雰囲気や業種の雰囲気を感じることができ、また、「働くことはどういうことか」という具体的なイメージを得られることで、就職活動においても大きなプラスになると思います。」（97M企業・初級シスアド・第2種情報処理・125）

② 企業・業種研究

「実際社会に入ると、大学生の頃思っていたものと全然違ったりするので、もっと具体的に分かりやすく、会社というものがどういうことをしているのか知ることのできる場があればいい。」（02F企業・MOUS・61）

「就職活動中によく聞く言葉が『就職してみないと、どんな会社かわからない』ということ。活動中は、自分の想像と実際がなるべく近づくようにOB訪問や会社訪問を行うが、それでも就職後に大きなギャップを感じたという話を聞く。業種や職種について学生がなんとなく理解しているところと実情が近づくような講義や活動を取り入れたらよい。」（05F企業・WORD・EXCEL 2・簿記2・宅地建物・9）

「具体的な仕事内容について知る機会があればよかった。どんな職種があるか、どんな知識が役に立つのか、学生時代考えていたよりも世の中にはたくさんの職種可能性があることを知っていたらよかった。」（96F103）

「どんな職が自分に合っているのか、何をしたいかと悩んだ就職活動中は、結局その会社の仕事の中身まで、本当の意味で詳しく理解できず、よく分からないまま就職した気がします。今では、自分に一番向いている仕事だと思えますが（仕事も楽しいですが）、在学中でできれば1年の時から、社会にはこういう仕事があって時間のある大学生のうちにこういうことをして、こういう資格を取っておけばいいという講義があれば、職を転々とする人たちが減るのではないかと思います。」（98M企業108）

「どんな仕事があるのかというようなガイダンスなどを1,2年生ぐらいの早い時期からやっていけば良いと思います。自分がしたい仕事はどんなものなのか、なかなか分からないと思うので。僕も一度は民間企業に就職しましたが、自分には合わなく、今は自分が一生やっていくにふさわしいと思う消防士として働いています。」（02M公務員150）

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

「特殊な授業内容もあるので、将来どんな仕事につきたいかをまず考え、カリキュラムを作成する事をすすめたいです。大学側には、就職の道を少しでも学生に開いてあげられるような体制をとってほしいと思います。例えば、国際平和などが存分に学べるので、平和研究や JICA など。就職した先は一般企業ですが、そこでは国際政治を学んだ事を発揮するのとは無縁でした。今はもったいないと後悔しています。」(99F・EXCEL 2 秘書 2・153)

③ 卒業生による講義

「自分自身を見つめる、考えるということを始めておくべきだった、と私は思います。私が大学時代によかったと思えた講義は、“人生と仕事”でした。」(04F 企業・MOUS・45)

「実際に卒業生が、現在のどのような仕事をしているか、具体的に知る機会があればもっとよい。私の現在の仕事は、在学中には思いもつかなかった仕事です。」(2000F 企業118)

「色々な立場（フルタイム・バイト・主婦など）の OB からの体験談をそれぞれ男女それぞれ分けて開催してはいかがでしょうか。」(96F 企業77)

「ゼミで社会人になった OB・OG を招いて社会人と学生の違い、差などを気軽に話し合える機会があれば良いと思います。」(03F 自営・MOUS・88)

(4) 国際政治学科

国際政治学科について書かれているものを拾ってみた。すでに述べた大学で学んだこと以外にも海外セミナー、法律や経済を勉強できる、さらにはプレゼンテーション能力の向上などにも言及されていた。

「就職してから学ぶことの方が多く、現在の自分に役に立っているものの多くは社会人になって学んだものです。国際政治学科で学んだものが直接現在の自分の役に立っているとは言えません。ただし、ものの考え方、学習の仕方は学生時代に身につけたものです。また、2年生の春休みに行ったニュージーランドは視野を広げる意味で貴重な体験でした。」(97M 企業・TOEIC・149)

「私は大学4年間ほとんど勉強せずに過ごしていましたが、就職してみて、もう少し勉強しておけばよかったと思います。公務員（広島）なので、法律の知識や基本的な考え方など。それなら法律学科の方がよかったのかと考えたこともありますが、大学を選ぶ際に法律を勉強したいとは思えなかったのも、やはり興味のある学科に進みながらも基本となる法律や経済などを学ぶことができるという意味で国際政治学科はよかったなと思っています。」(95F122)

「就職活動を今までしてきた中で、『国際政治学科は何をするの？勉強して何になるの？』というような質問を面接官に聞かれたことが何回もありました。一般企業に関して言えば、経済を勉強していたり、パソコンのスキルがあったりと、実用的な面で役に立つ知識、スキルがある人材が欲しいようです。私は国際情勢と語学の両方に興味があったので、『国際政治学科』を選びました。今は働きながら翻訳の勉強をしていますが、ただ「英語」というだけでなく、職業にすぐ結びつくような具体的なプログラムが大学にあればいいと思います。」(04F・TOEIC・EXCEL・170)

「自分がそうだったけど、就活中・就職後に『国際政治って何を学ぶの？』と聞かれることが本当に多い。本業で何も身につけていなければ、いくら職業訓練的なことを課外でやっただとしても、まったく本末転倒。逆に自分が学習研究したことの中で自慢できることがあれば、たとえ畑ちがいであっても、話を聞いてくれるトップは多い。」(01F・英検2・99)

「就職してからプレゼンテーション能力や質問の向上の重要性を強く感じました。学生時代にはほとんど意識しませんでした。ゼミをこれらの能力の向上のために積極的に活用しておけばよかったと反省しております。」(95F154)

お わ り に

今回、学科を設置して15年を迎え、卒業生全員アンケートを実施した。「はじめに」で述べたように、回答率が高いと言えない。しかし記述式回答も多く書かれており、本アンケートの意義があったと言える。

実施してみて全員調査ではなくても卒業生を選び、詳しく答えてもらう方法もあるかもしれない。

今回のアンケートは、大学の意義、さらには国際政治学科の学生にどのようなキャリア教育をすればいいのか、示唆に富んでいた。また、現在進

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

めているキャリア教育，これからのキャリア教育の方向性を確認することができた。

同じ学科を卒業した先輩が，学科での学びを卒業後，どのように評価しているのかについて知ることは在学生には意義がある。すでに学科では，次のような仕事に関する講義を行なっている。

国際政治学科では「国際政治学科入門」という導入科目の中で1年生に卒業生の話聞かせ，国際政治や政治学の講義を通じてスキルを学ぶということを繰り返し話している。

2002年から3年間，卒業生による「人生と仕事」という講義をした。

2004年には内定した4年生の話や卒業生の講演，2005年には連続講演会「私の仕事と国際政治学科」などは，同じ学科の先輩の話聞かせ，将来の職業をイメージしてもらう試みであった。

「人生と仕事」の講義を聞いている時に，この講義は学生のためという側面もあるが，大学教育の成果を見せてもらっているように思った。今回の調査でも，その感を強くした。

学科の教育を通して，いわゆる幅の広い教養を身につけるようにしていく，国際政治学科の学生であっても一般の企業のインターンシップへの参加，会社や業種研究，卒業生による講義，一定の資格の取得などが必要と思われる。

卒業生の意見を現役の学生たちに伝え，学科の教育に生かすとともに，回答していただいた卒業生に感謝したい。

(付記：アンケート調査にあたっては非常勤職員善本ちえさん，国際政治学科の学生香川美貴さんにはデータの入力，表の作成などを手伝ってもらった。このアンケート調査は，本学の2005年度の教育の補助を受けた事業である。記して感謝したい。)

<参考>

「広島修道大学法学部国際政治学科の教育と職業のアンケート調査」

ご回答はもっとも該当する番号に○印をつけるか（問6-1, 6-2は複数回答）、ご記入ください。

問1 卒業年月（西暦） 年 月

問2 1. 男 2. 女

問3 1. 既婚 2. 未婚

I 仕事について

問1 現在働かれていますか。

1. はい 2. いいえ

問1-1 問1で「1. はい」と答えた方にお聞きます。現在、働かれているのは次のうちどれですか。

1. 企業 2. 地方公共団体（第3セクター・警察官などを含む）

3. 国家公務員（独立行政法人を含む） 4. 自営業 5. その他

問1-2 問1で「1. はい」と答えた方にお聞きます。現在の雇用形態は次のうちどれですか。

1. フルタイム（雇用契約の定めがない） 2. 契約社員 3. 派遣社員

4. パート

問1-3 問1で「いいえ」と答えた方にお聞きます。現在働いておられない理由は、次のうちどれですか。

1. 出産 2. 結婚 3. 介護 4. 資格取得 5. 転職準備中 6. その他

問2 現在、働かれている企業などには何年おつとめですか。

1. 1年未満 2. 3年未満 3. 5年未満 4. 7年未満

5. 10年未満 6. 15年未満

問3 大学を卒業して最初に就職した企業や地方公共団体などで現在も働かれていますか。 1. はい 2. いいえ

問3-1 「2. いいえ」と答えられた方にお聞きます。卒業して現在までいくつの企業・地方公共団体などで働かれましたか。

1. 2つ 2. 3つ 3. 4つ 4. 5つ以上

問4 現在、何か資格をお持ちですか。お持ちの方は、その資格名をお書きください。また大学時代に取得していると、就職後、役に立つと思われる資格があればお書きください。

(1) 持っている資格：

(2) 役に立つと思われる資格：

Ⅱ 大学教育について

問5 大学在学中の正課，課外を問わず，仕事との関係で有意義であったと評価できることはありますか。

1. ある 2. ない

問6-1 「1. ある」と答えた方にお聞きします。有意義であったものは次のうちのどれですか。いくつでも選んでください。

1. 講義 2. ゼミナール 3. サークル活動 4. アルバイト
5. 友人 6. 海外セミナーや交換留学
7. その他（具体的にお書きください）

問6-2 「1. 講義 あるいは2. ゼミナール」と答えた方にお聞きします。それは次のうちのどれですか。2つまで選んでください。

1. 考え方
2. 文章あるいは口頭による表現
3. 情報技術（コンピュータ）
4. 自分で勉強する方法
5. 語学
6. その他（具体的にお書きください）

問6-3 「2. サークル活動 3. アルバイト」と答えた方にお聞きします。有意義であったと思われたことは何でしょうか，お書きください。

問7 大学教育の中に仕事・職業との関連で取り入れたらよいと思われることがありましたら，お書きください。また，何かお書きになりたいことがあれば，ご記入ください。

整理 番号	参考資料1 アルバイト、サークル活動を通して有意義であったこと	分類	a	c
3	アルバイトは社会で働くことの厳しさを学びました。仕事に責任を持つことの大切さを学ぶことに有意義であったと思います。	a	1	
99	社会人並みではないけど、多少は責任感など、社会勉強になった。今の仕事でつらいことがあった時、アルバイト時代に色々のりこえてきたと思うと、もう一回がんばってみようという気になる。	a	2	
9	入社1年目の私は、最初の数ヶ月、OJTになれるのに大変でした。指導員がつくといっても、先輩も忙しく、仕事の合間を見計らって教えてもらいながら覚えていかないとけません。そういった机上学習とは違った経験をアルバイトを通じて学生時代に経験していたことで、割と抵抗なく職場の雰囲気になれることができたと思います。	a	3	
19	様々なアルバイトをし、年齢層も多様でした。そういった人にどのように接すれば人間関係がうまくいくのかを学んだように思えます。	a	4	
68	お金を稼ぐことの苦勞とお金の大切さを学ぶことができた。いろいろな年齢、経験を持つ方と友人、知人となることができた。(今も交流が続いていて、社員の結婚式に呼ばれたり、語り合ったりする機会がある)	a	4	
79	自分の適性(自分に向いている仕事かどうか)を見極めることができたと思う。また、学外でネットワークを築くととても選択肢が広がる気がする。	a	4	
88	私はアルバイトで老若男女を問わず、いろいろな方と知り合うことができました。学生の頃は、接することだけで嬉しかったのですが、私の視野もすぐ広がっていることに気づきました。私は1年半前から兄と2人で自営業をしていますが、その時も支えて頂き軌道に乗ることができました。人とのつながりは私の財産です。	a	4	
141	たくさんの人と会えること、新たな規範に従うことなど、高校時代よりもずっと広い世界に接することができました。社会人としての必要最低限の知識や技能は、アルバイトを通じて学びました。	a	4	
32	集団行動での人間関係や協調性の形成。色々なアルバイトをする事で、就職をする時に自分が何になりたいか、向いているかが分かった為。	a	5	
77	少しでも興味のある仕事があれば、アルバイトをしてその職場に携わる又は見学できるということは、将来の就職の選択に役立つと思います。	a	5	
110	百貨店で4年間アルバイトをしました。その経験が自己分析にもつながり、現在の職業(百貨店勤務)となりました。社会に出る前に実践で勉強できたことが良かったです。	a	5	
172	様々な職業を見るチャンスだと思うから。いざ自分が仕事に就く時の判断材料になると思う。	a	5	
35	「自分で働く」ということを学生時代にしておくと、企業などに就職した時、その経験が少しなりとも役に立つと思います。また、現在公立中学校で教員(英語科)をしておりますので、社会体験をしておくことは、より自分の視野を広げるためにも大切だと思いました。	a	6	
45	アルバイトで、会社の中で働くということがどういうことかを知ることができたと思います。社員、アルバイト、契約社員など様々な立場、職種で働いている人たちの話を聞くことが、今の自分の職業を決めるのに役立ちました。	a	7	
69	社会人として働く前にアルバイト等で働くことを経験し、または社会人と触れ合っておくという事を就職する前に経験しておくことは今後の就職活動を行う上でとても重要な事であると思いました。学生時代のアルバイトは、社会人となる上でも大切です。	a	7	

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

整理 番号	参考資料 1 アルバイト、サークル活動を通して有意義であったこと	分類	a	c
82	社会人になる前に「働く」ということを体験しておく、社会に出た際すぐに辞めたいという思いが減ると思います。	a	7	
104	労働によりお金を得ることでお金の価値が変わった。働くことの大切さを知った。	a	8	
53	大学在学中は自分の時間が多く持てるので、勉強や友人と過ごす時間以外に、外に出て自分でお金を稼いでみるという時間を持つのは良い経験になると思います。	a	8	
126	仕事の進め方、人間関係の築き方、人対人の接客で得るものの大きさ、これらを含めて自分自身成長をしていくことが有意義だったと思います。	a	9	
155	社会人になる前にアルバイトをすることで、社会での一般的な常識が身につく。当たり前のことだけれども、挨拶をはじめ、働いていく中での人間関係の築き方を、自然に体得している。	a	9	
56	アルバイトを通じて社会で働くことの大変さを少しは分かることができた。また、上司など会社の人の付き合いも学ぶことができた。	a	10	
93	アルバイトで、社会人としてのマナーを学ぶことができたので、会社に入ってから、電話応対などすんなりできたこと。社会人として仕事の責任の重さも感じたこと。(アルバイトは、顧客のデータ入力・電話確認をしていました。)	a	11	
156	アルバイトはホテルのサービスをしていました。お茶の出し方、挨拶など、基本的な礼儀が身に付きました。サークルは就職活動の時よく聞かれます。	a	11	
147	ある程度社会生活に慣れていたので、就職しても社会常識がアルバイトをしていない人よりも身についていた点。	a	12	
57	学生であっても、それに甘んじず、自分の責任で与えられた仕事や、やるべきことを最後まで成し遂げる訓練の場となった。	a	13	
112	アルバイトをしておいた方が、未経験で社会に出るよりもずっと入っていけるし、心構えが違うと思う。会社の仕組みをわかっているのが馴染みやすいと思う。	a	14	
174	アルバイトで、数字に追われる仕事をした。(電話で契約を取る)営業職の体験をすることで、辛さ、やりがいを感じた。	a	15	
27	物事の計画性。また意欲、目標をしっかり持つという事で自律心が養われるということ。	a	18	
83	アルバイトで経験した接客業が就職してから役に立った。	a	19	
105	実際、社会人として働く前に、社会で働くということに対しての心構え、そして、自分自身の得手・不得手が改めて確認でき、具体的な目標を持つことができた点。	a	20	
158	サークル活動を通して上下関係のつながりを持てたことは、社会における人間関係の形成にも役立ったと思う。	c		1
179	先輩や後輩をはじめ、他サークルの方々等多くの人と交流を持つことにより、多くの事を学ぶことができた。人間関係を築く上で非常に有意義だった。また、1つの事柄について皆で分担し合って成し遂げてゆく経験は、今も仕事の中で少なからず役立っている。	c		1
50	音楽系サークルに所属し、演奏会等やイベント、会議などの運営を進めるにあたり、現在の仕事や地域活動での段取り、ある意味の危険予測の経験を積み事が出来ていた。世話をする側、される側両面での「責任感」も養えていたと感じる。	c		2

整理番号	参考資料1 アルバイト、サークル活動を通して有意義であったこと	分類	a	c
70	体育会系で毎日練習だったので、体力と根性が身に付いた。また、試合を多く経験し、本番での自分のウィークポイントを知ることでもできた。	c		3
71	皆で協力するとこんなにも大きな力になるということを何度も経験した。辛いことや大変なことを一緒にやってきた仲間だから、一生つきあっていける仲になったと思う。優先順位や、臨機応変の対応の仕方を身につけた。	c		4
135	サークル活動では、周囲と合わせる、自己中心的な行動を取らない、周囲をよく観察するなどの力がついた事が有意義でした。アルバイトでは、今の仕事の基盤を築くことができました。	c		4
136	多様な考え、意見のある中に身をおくことができたこと。サークルを運営していく上での事務作業や雑務を経験できたこと。我慢することを学んだ。	c		5
178	教わること、教えることの訓練ができる。同じ時間を共有することで、一生涯の友人が作れる。	c		6
176	大学でのサークル活動の運営は全て学生に任されています。幹部として活動されなかった場合は違うのかもしれませんが、会社や組織の運営基礎や、人間関係のあり方など学ぶことが多いです。今の会社で、新入社員が入った時、大学時代にサークル活動をしていたかどうかで、かなり社会性が身についているかどうか差が出ているように思います。	c		7
81	サークル活動：組織の中で自分の位置を認識し、自分のできることを実行し、組織を運営していくことの大切さ、楽しさを学びました。アルバイト：実社会の中で自分が必要であることを認識し、自分の働きに対し、お金を頂くことを初めて体験でき、また、それにより自覚と責任を感じ日々を過ごすことができました。さらに、それまで横のつながりで日々を過ごしていたのに対し、縦のつながりの中で、自分を活かしていくことも学ぶことができました。	ca	2	8
121	サークル活動：高校までには体験してきたものとは全く違う人間関係。当時はあまり意識していなかったけれど、今思えばサークル活動は初めて経験する“小さな社会”でした。活動を通して得たことが実社会に出て、大いに役立っていると思います。アルバイト：こちらも社会勉強になりました。サークル活動のように甘えがきかない実社会での実践です。責任も大きい分、学ぶことも大きいです。	ca	10	1
42	アルバイト：接客の仕事（アルバイト）をしていたので、周囲への気配りや自分から積極的に動くことが身に付いた。また、やるべきことがたくさんある中で、優先順位をつけて計画的に行動できるようになった。サークル活動：テニスをやっていたことで、今、就場の先輩方と休日プレイをして楽しんでいる。スポーツは時に上下関係をうまく築くことがある。仕事がやりやすくなった。	ca	18	1
a はアルバイト、c はサークル、ac は両方を表す。ac にある数字は本文中の表 2-2 と表 2-3 の内容欄にある数字である。				

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

整理番号	参考資料2 大学教育に仕事・職業との関連で取り入れたらよいと思われること	分類
35	国際政治学科在学中は、英語学習だけでなく世界のこと、世界の中の日本のことを深く学びました。そのことは今子供たちに伝えるべきことの中に生きています。私が入学した当時とは、学生の質も様変わりしたように思いますが、国政で学ぶことは、視野を広げる上でも大変役に立つと思います。	1
73	就職のための大学であるなら、何も大学である必要はなく、高度な専門学校で事足りる。大学は「学問の場」であり、その大切さは無形のものであると思われる。	1
86	大学教育は学問であり、“職業訓練の場ではない”ので、職業のためには課外で独自に習得すべきものと考えます。	1
93	国際政治では、国際情勢を学べ、世界に目を向けることができるので、海外の企業などとの関連があってもおもしろいのではないかと思います。具体的には思いつきませんが、日本→世界を見るのではなく、世界→日本を考えることも、興味深いのではないかと思います。	1
94	大学と専門学校の垣根は取り払うべきではないと思います。学外活動は積極的に行った方がいいとはいえ、やはり学ぶ本分をわきまえ、学生としての教養と社会性をきちんと身につけて頂きたいと思います。	1
99	バイト・遊びが最優先になってしまっている。自分がそうだったけど、就活中・就職後に「国際政治って何を学ぶの？」と聞かれることが本当に多い。本業で何も身についていなければ、いくらか職業訓練のことを課外でやったとしても、まったく本末転倒。逆に自分が学習研究したことの中で自慢できることがあれば、たとえ畑ちがいであっても、話を聞いてくれるトップは多い。	1
130	大学での学習が、直接職業や仕事と結びつくというのはごく少数の人だけだと思います。正直、国際政治学科を選び、他の国にも目を向けてみた。直接就職には結びつかないけれど、専門学校のような就職が目的だけではない場所が、大学にはあるのだと、そういう場所があってもいいのではと、今では思っています。	1
141	最近の大学はどことも、職業に直結する（インターンシップや資格取得など）ことにばかり目が向いているようで少し残念です。学生や親の意識も、ますます大学に依存、よりかかり過ぎているように見受けられます。せっかくの4年間です。就職活動よりも、その後の人生の方がはるかに長いわけで、そこへ向けての下地づくりが大学生活であると考えます。やりたいことや明確な目標が常に持てる人は少ないと思います。それでも、自分がどうありたいのか、友と語りあい、様々な世界に接すること、大学での勉強を通じて表現し、考える方法を身につけることなど、目先の結果にとらわれない、人間としての意識を高める機会をもっと増やしていくことは、大学だからできることではないでしょうか。	1
143	技術で言えば、パソコンは必須。でも、最も大切なのは人間関係、責任感、仕事の組立て方。これらは授業で学んでできるものではなく、今までの人生でいかにいろいろな人と出会い、考えていたかによる。私は仕事の中で、大学の授業内容は全く関係なかったが、あの4年間は無駄ではなく、人生において必要な時間だった。	1
144	就職を意識しすぎて、大学の専門学校化が進むことを危惧します。こういった時代だからこそ、学を究める大学としての差別化を図ることも大切なのではないのでしょうか。	1
149	就職してから学ぶことの方が多く、現在の自分に役に立っているものの多くは社会人になって学んだものです。国際政治学科で学んだものが直接現在の自分の役に立っているとは言えません。ただし、ものの考え方、学習の仕方は学生時代に身につけたものです。また、2年生の春休みに行ったニュージーランドは視野を広げる意味で貴重な体験でした。	1

整理 番号	参考資料2 大学教育に仕事・職業との関連で取り入れたいと思われること	分類
155	ゼミをさらに発展させ、企画→制作→プレゼンテーションを身につける授業に力を注ぐべきだと思う。社会に出て実感したのは、自分の考えたこと、思ったことを相手に伝え、理解してもらうことがいかに難しいかということ。働く現場では、あらゆるシーンでアイデアを求められ、それを実践していくことが重要になってくるため、単なるコミュニケーション能力だけでなく、カタチにしていけるためのプレゼンテーション能力が必要。これは、どんな職業についても言えることだと思う。また、国際政治学科だけでなく、他の学科でも言えることだと思うが、この学科だからこの方面へ必ずしも就職というのはないと思う。だから、入学を考える高校生には、就職先の振り幅を見せてあげることが大事だと思う。国際政治を学んだとしても、直結する職業は少ないとネガティブに考えるのではなく、多岐に渡る分野で活躍できるということを伝えるべきではないでしょうか。大学生一人ひとりが興味・関心があることを学び、先生や友人との関係の中で人間性を豊かにする場であって、大学教育＝職業というように直結して捉えるのは疑問に思う。	1
159	身の振り方は自分次第であり、ペースとなる勉強をさせてもらったと思っています。	1
177	大学時代の活動は正課、課外問わず今の私の基礎となっています。では、どの活動、授業がどんな力に？と問われると難しいものがあります。今私は広告代理店に勤めていますが、授業の内容が直接専門として生かしているわけではありません。考え方や、問題を解決する能力などの力になって役立っています。在学生や今から大学に入る高校生に、社会で必要な能力と、大学で身につける能力を関連づけて具体的に示してあげて欲しいと思います。今は就職活動の際に慌てて自分が身につけた能力を探し出している状況だと思います。(とても難しいと思いますが)	1
42	プレゼンテーション能力の向上、社会人としてのマナー、グループ討論、交渉能力の向上、イベントの企画、実行	3
98	積極性のある人ない人、口頭、文書表現のヘタな人、上手な人、どちらが仕事の能力に劣るということは決してありませんが、社会に出ると、驚くほど周りは積極的にアピールしてきます。仕事が出来ない別として、アピールした者勝ちの場所が多いので、何か一芸を持つことを目的にした授業があればおもしろいかもしれません。引出しを増やすことが大切です。	3
132	現在、そういった講義もひょっとしたらあるのかもしれませんが、私自身あまり機会はないのですが、プレゼンテーションを取り入れたらよいかもしれません。仕事の関係で英国へ行き、ビジネス英語のクラスを受けた事があります。私も含め日本人は完全な形を求めるせいか、あまり得意な分野でない気がしました。	3
148	ゼミ形式での論文提出、報告(プレゼン)の繰り返し、ディベート、フィールドワーク(聞き取り調査、統計など)	3
154	就職してからプレゼンテーション能力や質問の向上の重要性を強く感じました。学生時代にはほとんど意識しませんでした。演習(ゼミ)をこれらの能力の向上に積極的に活用しておけばよかったと反省しております。	3
23	職場体験できるインターンシップの機会を増やすとともに、学生に浸透させ、意識の向上を計るようにして欲しい。	4
49	学生のうちから仕事と向き合う時間を作れば良いと思う。自分の中でインターンシップは今思えば、ものすごくいい経験になった。国際政治学科はかなり自分から離れた事を教えらる事が多かった。身近な事に関しての講義があれば良いと思った。また、ゼミナールは全員参加にするべきで、論文を書くべきだと思う。今思うと論文を書いてよかったと心から思えるから。	4
57	国際政治学科は英語英文学科に次いで語学カリキュラムが重要なので、小中学校などへ学生を派遣して、総合科や英語の授業で教育実習のようなことをするのがよいのでは？	4

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

整理番号	参考資料 2 大学教育に仕事・職業との関連で取り入れたいと思われること	分類
83	単位の取れる企業体験の職種をできるだけ増やす。大学1・2年の頃から就職を意識できる環境を作り、ただし、面倒くさい感じです。	4
89	夏季休暇を利用した企業や役所へのインターンシップ制度の充実（単位科目として、特に優先、優遇させる）、在学中に大学が認定した資格を取得した際の優遇制度（学費の免除等）	4
104	インターンシップをもっと活発に行って、学生が興味のある業界の実情を目で見るのができたら、職業・就職に対する考え方も変わると思います。	4
124	現在の職種が、学んだ学部との結びつきが無いので思い当たりません。強いていうならば各種資格の強化、ビジネスマナーの実践が必要と思われます。そういう意味ではインターンシップは、「働く」という環境を垣間見る事ができるのではないかと思います。実際に就職してみないと実感できないという事がほとんどです。	4
125	実習を行うとよいのではと思います。学生の希望する業種の企業、団体にある程度の期間（1週間～2,3週間ぐらい）行き、実際の仕事内容を見学したり、仕事を手伝ったりするということです。就職セミナーや会社訪問よりも企業、団体の雰囲気や業種の雰囲気を感ずることができ、また、「働くことはどういうことか」という具体的なイメージを得られることで、就職活動においても大きなプラスになると思います。	4
178	広島には地味ながらも海外との交易のある会社が多数あるので、そういった会社にインターンシップを広げてみてはどうか？	4
1	会社の社長さんなどに来て頂きお話を聞く機会が増えれば、働く事を「嫌だ」という意識から「楽しみ」という意識に変えられるのではないのでしょうか？	5
9	就職活動中によく聞く言葉が「就職してみないと、どんな会社かわからない」ということ。活動中は、自分の想像と実際がなるべく近づくようにOB訪問や会社訪問を行うが、それでも就職後に大きなギャップを感じたという話を聞く。業種や職種について学生がなんとなく理解しているところと実情が近づくような講義や活動を取り入れたいと思う。	5
10	会計士や税理士など具体的な職業にしばった専門クラス。私自身が今税理士受験をしている為、もっと早いうちに（大学時代）勉強を始めていればと思うからです。	5
24	様々な職業に就いている人のセミナーがもっと回数があれば良かったなと思いました。資格取得の為のクラスも種類を増やしたり、時代のニーズに対応して欲しい。	5
43	私は卒業してエステティックサロンに就職して今も同職で働いているので、学校の就職ガイダンスの中にもっと女性の仕事をメインとしたガイダンスを入れたら良いと思います。	5
45	自分自身を見つめる、考えるということを始めておくべきだった、と私は思います。私が大学時代によかったと思えた講義は、“人生と仕事”でした。	5
50	実際現場で働いている様々な職業の方々の話を聞いて、具体的に自分が働く事を想像して講義などを受けると吸収力が違ってくるのでは？	5
61	実際社会に入ると、大学生の頃思っていたものと全然違ったりするので、もっと具体的に分かりやすく、会社というものがどういうことをしているのか知ることのできる場があればいいと思う。	5
64	職安などでやっている若者の育成プログラムみたいなものを取り入れてみるのも良い。（仕事のやり方を学ぶもの）	5
77	色々な立場（フルタイム・バイト・主婦など）のOBからの体験談をそれぞれ男女それぞれ分けて開催してはいかがでしょうか。	5
81	学外、特に企業団体などからもっと多くの先生を採用し、現実的な社会の中で体験したことを講義により多く行った方が良いと思います。	5

整理番号	参考資料2 大学教育に仕事・職業との関連で取り入れたらよいと思われること	分類
88	ゼミで社会人になった OB・OG を招いて社会人と学生の違い、差などを気軽に話し合える機会があれば良いと思います。	5
103	具体的な仕事内容について知る機会があればよかった。どんな職種があるか、どんな知識が役に立つのか、学生時代考えていたよりも世の中にはたくさんの職種可能性があることを知っていたらよかった。	5
107	明確に何がしたいかも分からない高校生もいるので、修道大学のオープンキャンパスへ参加して、どうなれるのかの具体例を知りたいのだと思います。国際政治学科で学んだことは、今の私の考えに大きく影響しています。	5
108	どんな職が自分に合っているのか、何をしたいかと悩んだ就職活動中は、結局その会社の仕事の中身まで、本当の意味で詳しく理解できず、よく分からないまま就職した気がします。今では、自分に一番向いている仕事だと思えますが、(仕事も楽しいですが) 在学中でできれば1年の時から、社会にはこういう仕事があって時間のある大学生のうちにこういうことをして、こういう資格を取っておけばいいという講義があれば、職を転々とする人たちが減るのではないかなと思うのですが。	5
114	大学4年間で自分が就きたい仕事について、もっと考えられる講義などを必須科目で取り入れるべき。	5
118	実際に卒業生が、現在のどのような仕事をしているか、具体的に知る機会があればもっとよいと思う。私の現在の仕事は、在学中には思いもつかなかった仕事です。	5
128	仕事、就職に対する意識や自分の人生設計に関する情報をもっと身近に考えることができる環境が必要だと思います。	5
129	どんな仕事があるのかという様なガイダンスなどを1,2年生ぐらいの早い時期からやっていけば良いと思います。自分がしたい仕事はどんなものなのか、なかなか分からないと思うので。僕も一度は民間企業に就職しましたが、自分には合わなく、今は自分が一生やっていくにふさわしいと思う消防士として働いています。	5
150	特殊な授業内容もあるので、将来どんな仕事につきたいかをまず考え、カリキュラムを作成する事をすすめます。大学側には、就職の道を少しでも学生に開いてあげられるような体制をとってほしいと思います。例えば、国際平和などが存分に学べるので、平和研究や JICA など。就職した先は一般企業ですが、そこでは国際政治を学んだ事を発揮するのは無縁でした。今はもったいないと後悔しています。	5
153	国際政治学科がどのような就職先に有効だったのか、今から考えてみると、自分がよく考えなかったこともあります。あまり明確でなかったように思います。とにかく就職しようという思いの方が強かったと思います。英語の勉強の海外セミナーなどは、とても良い経験になったと思います。就職に結びつく何か実習のようなものがあれば良いと思います。	5
115	簿記があれば良いと思う。その他、中国語検定など、就職と密着した検定試験対策講座などあれば良いと思う。	7
65	海外での語学研修、昔と違って視野の広さが変わったのもこの語学研修のお陰なので、出来るだけ学生であるという自由な時間に海外経験はして頂きたい。また、事務関係に就職したい女性も多いかと思うので簿記2級を取得されていれば何かと有利。	8
69	講義を受講して、そのまま資格取得につながるようになっていけば良いと思った。通常の講義を受講した後、課外の資格取得(有料)講義など、時間的にも金銭的にも負担が大きかった。学生の間はアルバイトやサークル活動も充実させたりと、やりたいことも多いので、大学にいる間に身につける学習が必要だと思う。	8

市川：卒業生からのメッセージ—教育と職業に関するアンケート調査

整理 番号	参考資料 2 大学教育に仕事・職業との関連で取り入れたらよいと思われること	分類
110	学部・学科など関係なく、もっと自分の興味を持てる資格が大学で取りやすくなればよいと思う。個人的には、医療・福祉系の資格が専門学校へ行かず、自分の通う大学で取得できればよかつただろうと思う。	8
112	卒業後、入社した企業が会社更生法により、再建するというので、転職をいたしました。現在、建設コンサルタントで土地家屋調査の資格を生かしながら働いております。大学教育において、一般的な基礎学力は、社会に出た時には必ず役立つと思っております。特に、資格取得において、大学教育の中で取り入れたらよいのではないのでしょうか。在学中に取得すれば、働きながら勉強することを思えば楽ではないのでしょうか。	8
131	もっと積極的に資格や就職について学べる場を作るべき。国際政治の勉強も有意義で良いものだが、就職先では学問よりも資格や知識を求められていると思う。	8
140	放課後に有料で受けることのできる Excel の講義を受けました。そこで学んだことは就職してからも大変役立ちました。	8
171	ビジネス上パソコンは必須なので、パワーポイントやアクセスは使えるほうが良いと思います。英語では TOEIC 600 点以上は必要だと思います。	8
173	最近サークル、部活をする学生が減ってきていると聞きます。こんな学生に対して、社会人（しかも若手）の仕事の考え方を知ってもらう場があるといいかなと思います。サークル、部活（ゼミ）では先輩が社会人になるにしたがっていい意味でも悪い意味でも情報が入ってきますが、タテの関係がだんだんとうすくなっている今、あえて学校側がその場を提供するのもいいと思います。（やるなら入学時から）	8
74	問 6 に関連しますが、今の職場で、アルバイトやサークル活動をしてきた新人とそうでない新人とであまりにも接客能力に差があるということを目の当たりにして驚いたことがあります。私の会社は販売業ではありませんが、どんな職業でもお客さんに与える第一印象はとても大事だと思います。挨拶 1 つにしても職場の雰囲気はどれほど変わるか。サークル活動やアルバイトは学業に差し障りない程度に体験してほしいと思います。	9
121	まずは世の中の流れに合わせてパソコン検定必須（学科を問わず）。次に学生時代から社会人になるギャップをなくすために、自分の心の持ち方の教育（辛いことがあっても耐えるなど）を伸ばす講義をしてもらえば精神的にも強い人が増えると思います。	9
126	履修が多岐にわたるため、自分が何を勉強したいのか曖昧になってしまいます。特に国際政治は法律と政治の中間にあるため、専門性というものがはっきりしません。その中に英語を取り入れることはとても画期的ですが、コースを絞り込むという生徒自身による選択肢も必要ではないのでしょうか。せっかく大学に行くわけですから、「文系＝一般・営業職」にならないようにできれば良いと思います。	10
19	国際政治学科を卒業したらこんな仕事に就けるというのはないが、逆に何にでもなれると思う。	11
66	私は現在大学で学んだことに直結した仕事に就いてはいないのですが、少ないながらそういった仕事も世の中にはあると思います。ですから国際政治学科の必要性はあると思うので、今後同学科が廃れることのないようにお願いします。	11
75	私は大学 4 年間ほとんど勉強せずに過ごしていましたが、就職してみて、もう少し勉強しておけばよかったと思います。公務員（広島）なので、法律の知識や基本的な考え方など。それなら法律学科の方がよかったのかと考えたこともありますが、大学を選ぶ際に法律を勉強したいとは思えなかったの、やはり興味のある学科に進みながらも基本となる法律や経済などを学ぶことができるという意味で国際政治学科はよかったなと思っています。	11

整理 番号	参考資料2 大学教育に仕事・職業との関連で取り入れたらよいと思われること	分類
122	就職活動を今までしてきた中で、「国際政治学科は何をするの？勉強して何になるの？」というような質問を面接官に聞かれたことが何回かありました。一般企業に関して言えば、経済を勉強していたり、パソコンのスキルがあったりと、実用的な面で役に立つ知識、スキルがある人材が欲しいようです。私は国際情勢と語学の両方に興味があったので、「国際政治学科」を選びました。今は働きながら翻訳の勉強をしていますが、ただ「英語」というだけでなく、職業にすぐ結びつくような具体的なプログラムが大学にあればいいと思います。	11
170	就職部という場所は近づき難い所だった。ハローワークの方が親身になってくれたように感じています。たくさんの生徒がいて大変なのは分かっていたんだけど、就職難の時代で自信をなくしがちだったので、もう少し優しく接して欲しかった。	11
48	就職する会社や部署にもよると思うけれど、一般的な常識も必要でした。特に私は事務職だったので、ハガキやのし紙の書き方、のし紙やのし袋の選び方などや、お茶の出し方まで分かっているようで自信がない事がたくさんありました。	12
152	正直、もっと真面目に勉強しておけばよかったと思っています。特に、社会情勢、政治、歴史についてはあまりに無知で恥ずかしいです。これはどこの会社でも必要な知識だと思います。最後に、私は修道が大好きで、国政を卒業できてよかったと思っています。	12
156	私は卒業時に自分は何がしたいのか分からず、就職先も決まっていませんでした。卒業後、1年半後やっと今の仕事に就くことができました。後輩のみなさんにも諦めず、是非頑張ってくださいたいです。	12
分類の番号と内容 1 教養・考え方を広く持たせる 2 英語プログラムの充実 3 プレゼンテーション、ディベートなどの講義 4 インターンシップ 5 企業紹介・業種、職業についての講義 6 文章表現力の向上 7 語学研修 8 資格取得講座 9 サークル活動 10 情報技術講座 11 国際政治学科の性格 12 その他		